



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

秋田県 湯沢市立湯沢南中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和5年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的 : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名 : JOCオリンピック教室
- 主催 : 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援 : スポーツ庁
- 協力 : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象 : 中学2年生
- 講師 : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間 : 2023年4月～2024年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数 : 80校程度
- 実施方法 : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験
に基づく「オリンピック
の価値」等を伝える



個人またはグループ
ワークで話し合った内
容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上の調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- **オリンピック**：三宮 恵利子 先生 (スケート/スピードスケート)
【出場オリンピック/長野1998冬季大会、ソルトレークシティー2002冬季大会】
- **期 日**：2023年9月6日(水)
- **ク ラ ス**：2年1組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



●長野1998冬季大会、ソルトレークシティー2002冬季大会にスケート/スピードスケートで出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「ベストを尽くす」「頑張る」「諦めない」、フレンドシップ：「仲間」、リスペクト：「思いやる気持ち」「敬意」と紹介し、これらの3つ価値を意識して取り組んでほしいと授業の目的を伝える。準備運動は、「体を使った後出しじゃんけん」を実施。先生がじゃんけんの技を全身でポーズした後、生徒が技を出して、勝ちと負けの両方を競う。

○主運動等



●主運動は、「滑走リレー」を実施し、最終走者が完走するまでの速さをチームで競う(全4回)。片足にモップシューズを履き、滑る方の足を浮かさずに進み、折り返し地点から戻ったら次走者にバトンをつなぐ。初走者はスタート地点でスピードスケートの体勢で構え、実際の競技と同じく「Go to the start. Ready?」の号令でレースを開始。2回目からは、実施前に作戦タイムを設け、結果を伸ばすための工夫について話し合う。3回目は、利き足と逆の足にモップシューズを装着して実施。4回目は、3回連続で1位を取ったチームがあったため、そのチームのみ折り返し地点でモップシューズを逆の足に履き替えるルールに変え、実施。



●滑走リレーで実践した工夫について尋ねると、生徒からは、横向きに走る、足の回転を速くする、チームで連携を取る等の回答があった。運動の時間を通して、仲間と一生懸命取り組むことにより、様々なオリンピックバリューを発見できたと思う。オリンピックバリューは、オリンピック選手だけが感じられるものではなく、皆の周りにもあることをもっと知ってほしい。座学の時間では、競技を通して経験してきたオリンピックバリューについて紹介し、皆で一緒に考えていきたいと伝え、授業終了。

- **オリンピック**：三宮 恵利子 先生 (スケート/スピードスケート)
【出場オリンピック/長野1998冬季大会、ソルトレークシティー2002冬季大会】
- **期 日**：2023年9月6日(水)
- **ク ラ ス**：2年1組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



●ピエール・ド・クーベルタンは世界平和を想い近代オリンピックを創設したと説明し、オリンピックシンボルは5大陸の団結を表現すると解説。東京2020大会と北京2022冬季大会でライバル同士の選手達が励まし合い、思いやりを示す場面を映した写真を見せ、オリンピックバリューについて説明。スピードスケートは個人競技だが、仲間のおかげで厳しい練習にも耐え、オリンピック出場を実現できた。メダルを獲得できず悔しい思いをしたが、練習も本番も全てベストを尽くしたので後悔はないと話す。

○個人ワーク～グループワーク等



発問①：運動の時間に感じたオリンピックバリューを書いてみよう。

②：合唱祭に向けて、どんなオリンピックバリューを意識するか書いてみよう。

発表①：「仲間と協力し1人1人がベストを尽くせた」「チーム以外の相手チームを応援した」「やり方を工夫し、たくさん応援し、みんなで協力し、ベストを尽くした」等

②：「1人1人が本番でベストを尽くせるよう、練習の時から仲間と協力して高め合う」「エクセレンスを意識して練習する」等



●競技映像を見た後、先生が実際に着用していたスケート靴と世界選手権大会のメダルを披露。オリンピックバリューは選手だけのものではなく、皆の人生にも大きく関係している。結果は後から付いてくるものなので、大きな目標だけでなく、何事も後悔のないように今出来ることに取り組み、ベストを尽くす心を忘れずにいてほしい。その中で、仲間の存在により、辛くても頑張ることがあると思うので、今後も友達を大切に、スポーツ以外でもフェアプレーの精神を持って頑張りたいと伝える。

■オリンピック：矢代直美先生（バスケットボール）【出場オリンピック／アテネ2004大会】

■期 日：2023年9月6日(水)

■ク ラ ス：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



•アテネ2004大会にバスケットボール競技で出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」「ベストを尽くす」「全力で取り組む」、フレンドシップ：「仲間」「チームメイト」「クラスメイト」、リスペクト：「感謝の気持ち」と説明。運動の時間は、仲間と協力しながら全力でチャレンジしてほしいと授業の目的を伝える。準備体操は2人組でバスケットボールを使ったストレッチと対面パス練習を実施。その後、代表生徒と先生がシュートの1回勝負を披露し、拍手が上がる。

○主運動等



•主運動は、4チーム対抗で「ボール取り競争」を実施し、どのチームが早くボールを3個獲得できるかを競う(全7回)。各チームから1人ずつ出て、中央にある9個のボールまたは他チームが獲得した敵陣地のボールを取り、自陣まで運び戻ったら、次の人がボールを獲りにいく。各回実施前にチーム内で作戦について話し合う。順番を待っている人は、ボールを取りに出ている人に他チームのボールの獲得状況を教えたり、行く陣地を指示することでチームで協力してみようと先生からアドバイスを送る。



•運動の時間を振り返り、皆が取り組んでいる様子から、オリンピックが大切にしているオリンピックバリューの3つの価値「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の存在を沢山感じることができた。全力で走り、仲間と協力して応援し合い、ルールを守っていたからこそ、思い切りゲームを楽しむことができたと思う。座学の時間は、運動の時間で感じたことや学んだことを思い出しながら、オリンピックバリューについて皆で話し合い、深く考えていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：矢代 直美 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック／アテネ2004大会】

■ **期 日**：2023年9月6日(水)

■ **ク ラ ス**：2年2組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



●近代オリンピック創設者のピエール・ド・クーベルタンは、スポーツを通じて世界の選手が交流し競い合うことで、世界平和を目指すことを唱え、オリンピック出場までに取り組む過程がオリンピックバリューを備えた人間に成長させると考えた。オリンピックバリューのエクセレンス：「ベストを尽くす」、フレンドシップ：「友情」「お互いを理解する」、リスペクト：「敬意/尊重」「感謝」「思いやり」は、皆の日常にも存在している。感じるだけでなく意識して生活すると自分を更に成長させることができる。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：合唱祭に向けて自分ができることは何だろう。どんな行動が取れるだろう。

オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

発表：エクセレンス：「一生懸命声を出す」「合唱祭に向けてクラスの目標を立てる」「練習でもベストを尽くす」等
 フレンドシップ：「一人一人が自分の役割を理解する」「クラスの雰囲気良くする」「協力し合う」「仲間を励ます」等
 リスペクト：「仲間を励ます」「体の調子を整える」等



●皆の発表から、今後の生活にオリンピックバリューを早速取り入れようとしていることが伝わってきた。合唱コンクールでも、皆で素晴らしいものを作るために団結し、全力を発揮してほしい。オリンピックバリューの3つの価値の「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」を意識した行動を日々積み重ねていくことで、将来に大きな変化を生み出すことができる。皆は無限の可能性を持っているので、今後も様々なことに興味を持って、挑戦して行ってほしいと伝え、授業終了。

■オリンピック：矢代直美先生（バスケットボール）【出場オリンピック／アテネ2004大会】

■期 日：2023年9月6日(水)

■クラス：2年3組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



●アテネ2004大会にバスケットボール競技で出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」「全力を尽くす」、フレンドシップ：「友情」「仲間」「チームワーク」、リスペクト：「感謝」「思いやり」と説明。運動の時間は、楽しみながらオリンピックバリュー意識して取り組み、その中で感じたり気づくことがあったら覚えてほしいと授業の目的を伝える。準備体操は、2人組でバスケットボールを使ったストレッチとパス練習を行う。その後、代表生徒と先生でシュート対決を実施。

○主運動等



●主運動は、5チーム対抗で「ボール取り競争」を実施し、どのチームが早くボールを3個獲得できるかを競う(全6回)。4チームずつ対戦し、各チームから1人出て、中央にある9個のボールまたは他チームが獲得した敵陣地のボールを取り、自陣へ運び戻ったら、次の人がボールを獲りにいく。各回実施前にチーム内で作戦について話し合う。6回目は、中央のボールを10個に増やし、3個獲得したチームは2ポイントに変更し、5チームで一斉に競った。



●皆の取り組み様子からオリンピックバリューが伝わってきた。全力で走ったことは「エクセレンス」、仲間と作戦を立て、チームワークを築いたことは「フレンドシップ」、思いやりの気持ちで声掛けをしていたことは「リスペクト」である。運動の時間を通して、皆の周りにもオリンピックバリューが存在することが分かったと思う。座学の時間では、先生が経験してきたオリンピックバリューについて話すので、皆と一緒に深く考えたい。最後に代表生徒が先生とのシュート対決に再度挑戦し、授業終了。

■ **オリンピック**：矢代直美先生（バスケットボール）【出場オリンピック／アテネ2004大会】

■ **期 日**：2023年9月6日(水)

■ **ク ラ ス**：2年3組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・アテネ2004大会に出場したと自己紹介。皆と同じ中学校2年生の時、担任の先生から何事においても何を意識してどのような行動をとるかを考えることが大切だと教わる。それまでは、無気力無関心の日々を送っていたが、物事への視点や向き合い方が変わり、オリンピック出場を実現させるまでにつながった話。ピエール・ド・クーベルタンは、順位やメダルを競い合うだけではなく、世界中の選手達が参加し交流する様子を示すことで世界平和に繋がると考え、近代オリンピックを創設したと説明。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：合唱祭に向けて、1人1人がどのような行動を取ればよいか、クラスとしてどのような気持ちで取り組んだらよいか、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

発表：エクセレンス：「全員で声を掛け合って練習する」「一人一人が声を出す」等
 フレンドシップ：「他の人に任せない」「クラス一丸で歌う」「分からないところをお互いに教え合う」等
 リスペクト：「クラスの輪を意識し誰にでも思いやりの気持ちを持つ」「日々の感謝を込めて歌う」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューは皆の日常生活の中にも深く関わっており、オリンピックは遠い存在ではないことを理解してもらえたと思う。先生も意識の持ち方や取り組み方を変え、日々の練習等を積み重ねたことにより、オリンピックに出場することができた。皆も今日から意識を変えて、オリンピックバリューに当てはめながら考えたり、様々なことに挑戦していくことで、将来の自分に大きな変化を与えることができるので、日々勇気を持って過ごしてほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■集合写真

・2年3組



■記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



・2年3組



■修了証贈呈

